

白井市生涯学習推進委員会臨時会議

1. 開催日時 令和2年1月17日（金）午前10時から正午まで
2. 開催場所 白井市役所東庁舎 1階 会議室101
3. 出席者 越村委員長、鈴木委員、伊藤委員、野澤委員、比屋根委員、猪野委員、坂井委員、清水委員、中嶋委員、吉弘委員
4. 欠席者 佐々木猛委員、佐々木重孝委員、工藤委員、近藤委員、笠原委員
5. 事務局 石戸課長、岩立主査補、菅沼主任主事
関口西白井公民館長、高安白井駅前公民館長、
大野青少年女性センター長
6. 傍聴者 1人
7. 議題 ①テーマ
「社会教育関係団体の育成・支援のあり方」について（公開）
8. 議事
（事務局）

それでは定刻となりましたので、これより白井市生涯学習推進委員会を始めさせていただきます。委員の皆様、年度初めのお忙しい時期に本日はご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

開催に当たりまして、委員長より一言ご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしく願いいたします。

（委員長）

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、生涯学習推進委員会の臨時会にご参加をいただきまして、ありがとうございます。また本年もどうぞよろしくお願いいたします。

これまで、この委員会ではいろいろと議論をしてきたわけですがけれども、今期の委員会としましては、3年の任期の中で、地域で活動しておられるサークルを中心とした社会教育関係団体の育成や支援のあり方について協議・検討を行い、その成果を文書にまとめて、提案という形で教育委員会に提出をするというところまで決まっております。

前回は、そのための議論のスタートといたしますか、キックオフといたしまして、委員の皆様アンケートにご協力をいただいたわけですがけれども、本日は、そのアンケート結果を改めて整理・確認したり、その上でワークショップも行いたいと思っております。

いつもの会議では、私が進行役になりまして、会議の形式で進めているわけですがけれども、今日は、どちらかといいますと、ワークショップをメインに、みんなでわいわいと意見を出し合いながら議論を進めていけたらと思っております。ですので、いつも以

上に積極的にご発言・ご参加をいただけましたら嬉しいなと思っております。

本日もどうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

委員長、ありがとうございました。

初めに会議の成立についてですが、白井市附属機関条例第6条第1項で、会議は委員の過半数が出席しなければ開くことができないと定められております。本日の出席者は、委員15名中10名の参加となり過半数を超えておりますので、本日の会議が成立することをご報告いたします。

また、白井市審議会等の会議の公開に関する指針の規定に基づき、本会議は公開で開催されることとなりますので、ご承知おきください。

それでは、ここからの議事については、白井市附属機関条例第6条第1項で、委員長が会議の議長となると定められております。

それでは、委員長、議事についてよろしく願いいたします。

(委員長)

それでは、改めましてよろしく願いいたします。

では、早速議題に入ります。社会教育関係団体の育成・支援のあり方につきまして、まず、事務局のほうからご説明をよろしく願いいたします。

(事務局)

それでは、本日の流れについて、確認をしながら進めさせていただきます。

まず、お手元にある資料A4、1枚の「生涯学習推進委員会におけるテーマ」とゴシック体で記載されているものをご覧ください。

最初に、テーマとなりますが、先日、委員長と打ち合わせをさせていただいた際に、もう少し表現をわかりやすくしたほうがよいのではないかというご意見がありまして、テーマの内容に影響がない程度に一部表現を訂正させていただきたいと思っております。

もし、こちらの新しいテーマの表現につきまして、委員の皆さんからご意見等ございましたら頂戴いたしたいのですが、いかがでしょうか。

特にないようですので、テーマにつきましては、新しい標記の内容で進めさせていただきます。

本日の臨時会では、まず、振り返りとして、前回、皆様にいただいたさまざまな内容の課題を出していただき、その内容を事務局でまとめました。そちらをもう一度確認したいと思っております。

その後、皆様よりいただいた課題の中から、今回、テーマに関して、特にかかわり合う課題をまとめましたので、一つ一つ確認をしていきたいと思っております。その後、こちらのほうでまとめました課題について、どのような順番で考えていくことがいいのかということをご皆さんで確認した後に、最初の導入として、なぜサークルや社会教育関係団体

が大切なのかを共通理解していくために、皆さんでワークショップをしながら意見交換をして、それをまとめたものを最後につくり上げる資料の導入部分に入れたいと思っております。

では最初に、前回の振り返りから見ていきたいと思えます。

前回の会議の中で、先ほど委員長からもありましたように、皆様に発表していただいて、事務局でまとめさせていただいたものが、皆様のお手元にも配付させていただいております。

まず最初に、率直に感じる地域の課題ということで、皆様からいろいろ意見をいただいています。

一番多く出ていたのが、少子高齢化、人口減少、住民のつながりの希薄、あとは、後継者問題。これは、自治会、ボランティア活動等となっておりますが、今回こちらの推進委員会でも話す、サークルや社会教育関係団体の中でも同じような問題があります。

そのほかにつきましても、地域における年齢層の違いがあるとか、学校単位で今はいろいろ動いているけれども、その学校単位の横のつながりが実はないということ。また、行政サービス以外で市民ができることがわからない。学校区を利用した活動や利用がなかなかない。子供も大人も今は本当に忙しい時代になってきている。地域のサークルや団体の内容というのがよくわからない。団体の情報がないのでよくわからないという意見もありますし、団体の名前からはなかなか把握ができないというような意見もあったかと思えます。あとは、小さいころから生涯学習を体験できる場がないのではないかとということと、社会教育ということの大切さを実感できる場がないということで、率直に感じる地域の課題というところでは意見をいただいたところです。

続きまして、今度は、社会教育関係団体やサークルの抱えている課題というところで意見をいただきました。

新規加入者が今は少なくなっている。こういった新規加入者がなくて、サークルや社会教育関係団体を継続していくことが難しいということで、センター長会議や公民館の担当者会議の中で、現場の職員からも意見が出ているということです。

あとは、サークル会員が高齢化してしまっているということ。若い世代の方が、興味はあるのだけれども、時間がないから入れないという声があり、そういったことが高齢化していってしまうというところがあります。

そのほかには、サークル同士の横のつながりがない。サークルの交流活動がないというところ。

サークル活動が、講師が主体となってしまっていて、自分たちで本当にやりたいという主体性を持ってやっているところが、最近少なくなっているのではないかとということ。

代表やリーダーが社会教育とか生涯学習ということを目的として理解しているのかと

いうところが、課題としてあるのではないか。

地域でいろいろな活動をしていく中で、社会教育関係団体というものの役割というのは、実際、何かというところが、なかなか見つけられないというところ。

サークル活動の内容がマンネリ化してきており、新しいことをやりたいと思っても、なかなかそこから踏み出せないでいる状態になっている。

活動している人たちの中に、社会教育関係団体というところの社会教育という意識が低いのではないかとということ。

自分たちはとりあえず楽しんでやればよいという趣味の範囲でやっている人たちの意識改革の必要性が必要なのではないかとということ。

社会教育関係団体として申請したいが、なかなかサークルからそこに行くまでのハードルが高い。サークル活動から社会教育関係団体に行くというのは、どうしたらいいのかを模索しているサークルも中にはいるのではないかとということ、課題として上げていただいております。

続きまして、行政側です。市の生涯学習や社会教育の課題ということで、白井市には、生涯学習計画というものが未整備である。だから、市民の人たちがどういったことを生涯学習にしていってほしいのかということが、行政側からのアクションが見えないということが問題であるということ。

また、市全体の生涯学習の全体像が見えないというのは、生涯学習計画が未整備だから見えないということが関連性であるかと思えます。

専門的職員、こちらは、社会教育主事や、公民館職員など、専門的職員の配置の必要性を市として考えるべきではないだろうか。

一番最初の地域のところでも出てきましたが、小学校区内までは横のつながりを今模索しているけれども、小学校区外のつながりを市としてどうしていくのか明確にするべきということ。

各団体との意見交換会の場がないので、場を設けたほうがいいのではないかとということ。

せっかくいい活動をしているのに、それを活用する方法を行政として考えていないのではないかとということで、資源の活用方法を考えてほしいということ。

サークルと社会教育関係団体をきちんとすみ分けして、しっかりと社会教育関係団体として活動している団体への支援、サークル活動をしているところを今後、社会教育関係団体に移行していくという支援。そういったことも考えた上で、サークルと社会教育関係団体のすみ分けをしっかりと考えていく必要があるのではないかとということ。

社会教育関係団体もいろいろな課題を抱えておりますので、そういったところをいかにケアしていくか、考えていく必要があるのではないかとということ。

社会教育に関する内容をしっかりと行っている団体へのケアをもっとすべきではない

かということ。

職場間の縦割り、横割りの体制。しっかりとしたい情報があるのに、それを活用できていない。社会教育関係団体として、本当は活用できるところはあるのに、そういった情報を提供できていない。職場間の縦割り、横割りというものの体制を見直したほうが良いということ。

行政情報をうまく提供できていないので、市全体として提供していく方法をちゃんと確立したほうが良いのではないかとということ。

行政は、どうしても専門的な用語を使うことが多い。そのせいで言葉がとても難しく、どうしても市民側との理解度の違いが生まれてしまっている。その辺をもうちょっとわかりやすい言葉にしたほうが良いのではないかとということ。

こういったことを皆さんからご意見をいただいたところです。

ここまでにつきましては、課題を取り上げて、皆さんから意見をいただきました。

次に、ここからは、期待などを含めた意見をいただいているところです。

まず、団体の面から考えるサポートの必要性ということで、サークルが抱えている困り事の把握をして、サポートしていく必要があるのではないかと。

それと関連して、団体が求めているものの支援。

団体が継続するために必要なことの必要性。

活動オファーの機会を提供すべきではないかとということ。

以上がサポートの必要性です。

次に、市民のほうから考えている社会教育関係団体へ望むものということで、広く開かれた活動。自分たちだけではなく、市民の人からも広く活動に入ってもらえるような活動をしてほしいということ。

自分たちが行っている活動を、どういう目的でやっていて、主体性を持って活動しているかということ。

せっかく会員が集まり活動しているので、それを地域にも活動を広げていってはどうかということ。

参加者の家族、知人とその時間の共有をして、もうちょっと社会教育関係団体としての活動の広がりを持ってほしいということ。

先ほどの課題の中で、活動のマネリ化がありましたが、来年も同じものを同じようにというものも必要だけれども、本当にそのまま同じものを毎年続けていいのか、もうすこし新しいものやってもいいのではないかとということ。

社会教育関係団体の活動の中で、ある程度の実費負担はあるとはいえ、基本無料でできるという魅力があるので、大いに活用をさせてほしいということ。

情報提供のあり方。既にある組織に入るにはハードルが高いので、広く開かれた活動をし、自分たちの活動についての情報提供を行ってほしいということ。

市やセンターで実施している講座に参加している参加者を、社会教育関係団体へ参加を促すような流れづくりが必要ではないか。

いろいろな事情で、組織に加入をしても、その後、退会をしなければならないということもあると思うので、組織からの入退会をしやすくした方がよいということでご意見をいただいたところです。

次に、団体やサークルへの支援のあり方ということで、サークルの主体性を考えた支援が、行政としては必要ではないかということと、主体性を考えた支援をするためにも、どういったものが大切なのか、行政として研修会を開催したほうがいいのではないかということ。

気軽に相談できる場所の体制づくりの必要性。

なかなかサークルや団体にたいして、主体性を持っていろいろなことを提供してくださいというのは難しいと思うので、行政が、いろいろな団体に声をかけ、体験会の開催を行ったりするということ。

行政的な文言が難しいので「社会教育とは何か」という勉強会の開催。

小学校区を利用して、小学校や中学校、自治会、団体などがありますので、小学校区を利用した活用方法。

今、団体が減少しているという課題があるので、今後、どのように団体を育成していくのか、団体を支援していくのかということも大切ではないのか。

サークル活動というのは、自分たちが楽しむだけではなくて、地域の人や違う団体の人たちも入って、教育するという立場に向かっていってほしいということ。

教育する立場になった場合は、やはりそれなりのメリットというのは付与したほうがよいということ。

行政にとっては耳の痛い話ですが、団体が申請していただく際には、いろいろな書類を書いていただいて、審査等をしているのですが、そういったものを簡素化するとよいのではということ。

知ってもらわなければ、団体に入りたいと、サークルの活動をしたいということができないので、知る機会の大切さ、情報の提供をよく考えて、行政がやっていくべきではないかということで意見を頂戴したところです。

最後に、この今まで話してきた課題や支援というところではなく、自由意見として上がっていたのが、地域の声をしっかり聞いてほしいという体制づくり。

あとは、文化祭が、文化祭実行委員会がメインとなって文化祭をやっていただいておりますけれども、そういったものを一層活性化していくためにどうしたらいいのかということ。

あとは、スポンサーを検討していったほうが、今後は活動費などの面でもいいのではないかという意見。

何回も出ていますけれども、行政用語が難しいので、市独自の言葉をつくるなどして、わかりやすい表現で社会教育というものをみんなに知ってもらったほうがいいのではないかと、前回の会議で意見を頂戴したところです。

前回の皆様の意見を踏まえて、今回考えていく課題を委員長にご指導いただきながら精査し、まとめていったものが次になっています。

社会教育関係団体の育成に関して特にかかわり合う課題として、まず一つ目。

一番最初の課題でもありましたけれども、少子高齢化や核家族化、職住分離等が進行している中、市においても地域の間人関係が希薄になってしまっています。地域の活力がどうしても停滞傾向にあるというのは、白井市だけではなく、全国的にも言われているところではあります。

地域で活動しているサークルや社会教育関係団体の活動にも同様なことが起きているというのは、先ほどもお話しした通り、地域の加入者がいないという意見、活動がどうしてもマンネリ化してしまっているということ。あと、同じ時間帯に隣の部屋でサークルがどのような活動しているか知らない、横のつながりがいないなどの課題に直面してきてしまっていることです。

昔から存在していた社会教育関係団体としては、子ども会や婦人会、青年団というものがあつたのですけれども、白井市においても、実は地域で活動していた子ども会や婦人会、青年団など既存していましたが、既に解散をしてしまっているという状況が実はあります。

2番目としましては、ひとつめの課題が地域の教育力にも大きく影響してきてしまっています。一例としましては、昔は隣のおじちゃん、おばちゃんに、何か悪いことをしていると平気で怒られた時代が、私が子供の時代は当たり前でしたが、地域でそのように子供を叱ると、今は通報されてしまう。そういった難しい時代になってきてしまっていて、地域で子供の成長を支えることが、正直、難しくなってきました。

ただ、皆さんもいろいろ地域で活動していて、本当に実感していると思うのですが、地域に求められているものは、ここ近年、多種多様化してきており、地域力の向上を本当に求められているという現状もある状況です。

先ほど地域に求められているものの一例としましては、文部科学省が、幅広い層の地域住民や団体が参画して目標を共有し、緩やかなネットワークを形成する地域学校協働活動の組織について、地域、市民やサークル、社会教育関係団体に協力を求めているようなことが、地域活動協働活動の中で求められているという状況があります。

ただ、それが近年求められていながらも、なかなかそういったものが難しい状況があるというのが実情です。

3番目としましては、一番最初に話した課題のような状況の中におきましても、まだまだ元気に活動しているサークルや社会教育関係団体が、実は多く存在しているのは事

実です。白井市においても、今年度、社会教育関係団体を35団体認定しましたが、そのほかに公民館で活動しているサークルや、公民館という枠にとらわれない広いところで活動してる団体、地域に根ざした活動をしている団体がありますけれども、その情報は、なかなか市民には広く伝わっていない状況ではあります。

生涯学習課にも「こういったサークルさんありませんか」とお問い合わせが来る方が多くいらっしゃいます。「市民サークルに入りたい」「これからは地域で活動したい」と思っている人もいますが、そういった人たちに情報が伝わる手段がどうしても乏しい状況で、加入に結びついていないことが一つの課題としては上げられています。

また一方で、サークルや社会教育関係団体の中には、なかなか新規の加入者を受け入れないという閉鎖的な雰囲気があるところもあって、それが活動が広がらない現状にもなっているのは事実です。

四つ目としましては、サークルや社会教育関係団体の中には、実は同じような悩み、課題を持ちながら活動をしているところも少なくありません。いろいろなサークル活動をされている方とか社会教育関係団体の方と、私もお話しする機会があるので聞きますと、同じような悩みを持ちながら、この先、本当に活動していけるのか、どうしてもなかなか新しい人が入ってこないとか、もっと新しいことをやりたいのだけれども、人数がどうしても限られているからできないとか、いろいろな課題で悩んでいるお話を聞きます。

しかし、この悩みを団体間で共有できていないという状況が事実であり、この悩みを解決するために、共同で何かを実施するという取り組みができていないという現状です。

また、行政、生涯学習課や公民館、類似施設等におきましても、サークルや社会教育関係団体が抱えている悩み、課題を認識していながらも、なかなか支援策を講じられていないというのも、センター長たちが集まる会議の中や担当者が集まる会議の中でも出ています。そういった支援をしたいのだけれども、人員配置の関係でマンパワーが足りずできないのだという話を聞いています。

以上のように、皆様の頂戴したアンケートの意見から4点にまとめさせていただき、今後は、この4点もとにそれぞれ検討していければと思っております。

ここで、皆様のほうに、まとめた課題についてそれぞれご意見等をいただきたいと思うのですが、何かご意見がありましたら頂戴いたしたいのですが、いかがでしょうか。とりあえず、この四つの課題を基本として進めていくということで、皆様、大丈夫でしょうか。

では、この四つの課題を基本として進めていくこととさせていただきたいと思います。

次にですが、順番を①、②、③、④と私のほうで丸をつけさせていただいておりますけれども、特にこの順番どおりに話し合っていく必要はないので、皆様のほうから、最初はこの順番がいいのではないかと、最初は①番がいいのではないかと、②番がいいのでは

ないかという意見をいただきたいのですけれども、順番につきましては、こういった流れでやっていけばいいかというご意見がございましたら頂戴いたしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員長)

私から質問するのもおかしいかもしれませんが。

前回、アンケートで出していただいたような意見を踏まえながら、この①から④の四つの課題に再整理していただいたと思うのですが、この①から④の課題について、一つ一つ、もう少し深めていくような、そうした議論をこれからやるという形でよろしいのですよね。

(事務局)

そうです。

(委員長)

それで、ここに書いてある①から④の順番どおり、一つ一つ確認しながら、深めていけたらいいということですね。

(事務局)

そのとおりです。

今、とりあえず①から④までの課題を皆様と共有させていただいたところですが、ここから先はワークショップを行いながら、サークル活動や社会教育関係団体の意義について、まずは皆さんで共通意識を図るためにも実施したいと思います。

ざっくばらんにいろいろな意見を皆さんのほうから出していただいて、付箋を使用しながらワークショップのテーマ、①、②、③について、一つ一つ話をしていきたいと思っております。

(委員)

いいですか。

僕、認識不足かというか、説明したこの四つの課題がございましたよね。

この四つの課題を受けて、事務局としては、テーマとして三つ設けましたと。

(事務局)

それとは別に、一番最初の導入部分として、まず、サークル活動や社会教育関係団体というのが、生涯学習推進委員会としてこういうところが大切だよということで今回、三つを上げているので、課題とはまた別な感じで捉えていただければと思います。

まずは、今回のワークショップの目的としては、今後、サークル活動や社会教育関係団体が大切だから、こういう課題を解決して行ってほしいのだというような流れに持っていきたいので、まずは、生涯学習推進委員会の中で、サークルや社会教育関係団体はこういうところがメリットであって、こういったところの活動の魅力があるのだよということを今回、皆さんの共通意識として、初めにという導入部分のところに、例えば、

サークル活動の魅力というのは、生涯学習推進委員会ではこういうことを考えています、こういうふうなところが魅力だというふうに思います、地域に存在する意義というのが、こういったところが生涯学習推進委員会では考えていますという感じで、一つ一つ、導入部分で入れたいと考えているので、今回のワークショップをさせていただきたいと思っています。

(委員)

ワークショップのテーマの三つのアウトプットを想像したときに、それが出てきて、謎が解決というか資するものであると、この四つの課題は全部解決してしまうのではないかという気が。ずっと見ていて。それを話せばというつもりで、きょう臨んだのですが、そうすると、若干違うのですね。今の事務局の話だと。

(事務局)

でも、そういったことで今回ご意見をいただいても別に構わないので、考えてきていただいたことを素直に付箋に書いていただければ、ここではいいと思いますので、よろしく願いいたします。

(委員長)

事前に事務局と打ち合わせをしておきながら、まだ自分でも混乱している部分があるので、もう一度、念のための確認したいのですが、先ほど事務局から、①から④に分けて課題を整理していただいたものというのは、これは私たち委員へのアンケートを整理したら、おおよそ、こういう課題認識になりましたということで提示していただいたものとして受けとめればいいですよ。

(事務局)

そうです。

(委員長)

ですので、①から④については、こういった視点が足りないとか、こういう認識や整理の仕方はちょっと違うのではないかとか、そういったことがあれば、皆さんから意見をいただいて、委員みんなの課題認識としてまとめていきたいと考えているということですよね。

ただ、いずれにしても、サークルや社会教育関係団体を巡って、今、いろいろな課題があるということは間違いないことで、その課題解決に向けて、これから支援のあり方を議論していくのですけれども、これから行うワークショップでは、「いきなり課題解決に向けてどうしましょう」ということを議論するのではなくて、まずは前提として、「そもそもサークルは何で大事なのか」「どこに魅力があるのか」「サークルが地域に存在することの意義は何か」などの根本的な部分を議論して共有・確認したいということです。そこら辺のことを全員で共有・確認しないで、一足飛びに課題の解決策について議論するわけにはいかないだろうということで、今回のワークショップでは、①から③の三つ

のテーマを設定させていただいたということです。こうしたテーマについて、大胆に意見を出し合って共通認識をつくることができれば、議論のスタートとしてはいいのかなというふうに思っておりますが、よろしいでしょうか。

(事務局)

はい。それでは、ここから少し休憩を入れさせていただきます。

－休憩後－

(事務局)

それでは、ここからはワークショップという形で始めさせていただきます。

私もこういった正式な委員会でワークショップをやるというのは初めてな試みとなっております。不慣れな点も多く、なかなかうまくコーディネートできるかわからないのですが、とりあえず三つのテーマについて、ここから進めさせていただきたいと思えます。

まず一番最初に、皆さんと共通意識を持つために、「サークル活動の魅力とはなに？」ということで、ざっくばらんに皆さんが本当に思っていることを付箋に書いていただいたと思えます。

いろいろ皆さんの思いもあるかと思えますので、一つ一つ、自分はここが本当に魅力だとか、ここを押したいというものがあれば、それを中心に話してください。

最初は一人ずつ付箋をはりながら話をしていっていただきたいと思えますが、まずは、我こそは自分が、サークル活動の魅力とはこれだというものを話したいという方がいらっしゃいましたら、ぜひお願いしたいのですけれども。なかなか言いづらいですね。そうしたら、1月誕生日の方いらっしゃいますか。こちらもいらっしゃらない。

そうしたら、ねずみ年の方。いらっしゃらない。

そうしたら、2月生まれの方、いらっしゃいますか。

(委員)

はい、私から発表するということですかね。

(事務局)

ここではどれが間違い、どれが正解というのはありません。本当に純粹に思っていることを簡単に、ぼんぼんぼんという形ではっていただいて、はっていった付箋で何かこれ似てるなというところがあれば、そこに皆さんでこの辺、この辺とはっていただいて、何となくグループができていけばいいかなと思えます。

では、済みません。委員のほうから進めさせていただきたいと思えます。

(委員)

一応、サークルは、内容によって知識とかスキルというものを自分で会得したいとか向上させたいというのが、まずの思いだと思います。実際にやってみると、楽しくなれば続いていくので、生きがいや楽しみになり。そうすると、今度、人間関係が深まっていき、広まっていくという、そういう感じですかね。

(事務局)

今、委員が一つ一つはっていただきましたけれども、今、皆さんが思っている意見の中で、似ているものだなと思ったら、そこにはってもらってしまって構いません。ちょっと無いなというのであれば、空いているところにはっていただいて、何となくのグループができていくかなと思います。

では、委員長、お願いします。

(委員長)

はい。私も委員と似ている部分いっぱいあるのですが、何よりもまず一番最初は、楽しいというのが魅力の一つだろうなと。大事な部分だろうなと思っています。

あと、同じ言葉で生きがいという言葉は私も使ったのですが、生きがいが見つかるということも、サークルの大きな魅力になっているだろうと思っています。

あと、ちょっと違う視点で上げたのは、皆さんから出されたアンケートの中にも出ていたのですが、余り費用がかからないで活動できるということもサークルの魅力かなんて思っています。

あとは、これまで仕事一辺倒で、なかなか趣味が見つからなかったという人にとってみれば、サークルを通して新しい趣味が見つかるような、そういう魅力なんかもサークルにはあるかなと思います。

あと、こちらもまた委員と同じようなことなのですが、委員が、知識・スキルの向上につながると言っておられたように、私も教養を高めることができるということも魅力の一つかなと思いました。

最後は、同じ興味・関心を持っている人と出会うことができる場がサークルなのではないかということで、人間関係とか、この辺に近いのかなと思います。私からは以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では次、お願いします。

(委員)

はい。私は、自分でやっているのは将棋なのです。将棋やっている体験から感じたことを。

一つは、教養を高める。将棋は日本の文化で400年あるのだけれども、子供なんかは全然知らない子供がいますので、そういう一面があるというのが一つ。

もう一つは、礼儀含めて非常に大事なものがあるので、そういうのを身につけてもら

うというのが。

もう1点は、技術の向上です。将棋も勝負なものだから、だんだんだんだん上手になっていって、成長という面が一つあるなど。

もう一つは、今までできなかったことができるようになるというのは、これは結構大きくて、事例なのですけれども、子供に問題出させて、つい答えを教えたくなくなってしまふのだけれども、そうではなくて考えろと。もう少し考えろと、まだまだ。できると、のけ反るのね。あっ、できた。これが多分いい影響になるのだと思う。一生懸命やればできるよというような、そんなことがあるものだから、できなかったことができる。満足度というか。そういったものを上げましたのは、入るのは、教養に入るかもしれない。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。次、お願いします。

(委員)

私もとても似ているのですけれども、まず、楽しみ。自分ももちろん楽しいですし、それを共有することができるということで大事だなと思いました。

生きがいという言葉にも近いかもしれないのですけれども、自分の生活とか、あと人生の充実というところがあるかなと思います。そっち側ですかね。

あとは、シンプルなのですけれども、学びの場。学んでいける。自分でずっと学び続けることができる。学校とかに入らずに、楽しみながらできる。

自由といいますか、自分の好きなことができるというのが大きいかなと思うので。どうしましょう。趣味とかにも近い気がしますね。

やはり人とのつながりということですね。仲間ができるということ。

ちょこっと、もしかしたら違くなるかもしれないんですけれども、そういう場があるということで、白井に住んでいてよかったなと思える住民としての満足度みたいな郷土愛というのを一つ入れました。以上です。

(事務局)

では、次、お願いします。

(白井駅前公民館長)

私は、端的に二つ。生きがいづくりと仲間づくりと。皆さんも出てらっしゃるので。

(事務局)

では、次に、お願いします。

(西白井公民館長)

まず、生きがいです。生きがいという言葉が入ってくるかなと思います。

あとは、みんなでわいわいやるので、孤立を防ぐとなると、ここ、仲間づくりですね。

あと、問題。サークルをやると、なんやかんやいって、皆さん、何かとトラブルを抱

えられることもありますので、問題解決能力、スキルの向上になってきますかね。このあたりかなと思います。

あと、これはさっきとかぶってしまうのですけれども、友達がふえる。友人、知人がふえるですね。

あと、これは壮大な視点なのですけれども、多様な文化が保持される。担い手が減ると、うち、ちょっと前にマクラメの教室とかができたのですけれども、今までなかったのです、マクラメ。だから、やっている人が減ってしまうと、その文化が途絶えてしまうので。壮大に見ると、やる人がいなくなると、文化がなくなるということですね。

これは、委員がいたから将棋のこととか思ったのですけれども、一人でできない活動。みんなでいないとできない活動というのがあるので。

ダンスのフォーメーションとか。いろいろあると思う。

(事務局)

ありがとうございます。では次、お願いします。

(委員)

自分目線なのですけれども、自分が今やっていることで感じていることということで、まずは楽しいということ。

あとは、人との交流とかですね。

あとは、自分の居場所。家族でもない、家庭でもないところでの自分の居場所づくりということで、この交流とかになるので。以上です。

(事務局)

では次、お願いします。

(委員)

一番枚数が多いような、仲間との触れ合いということでしょうか。

それと、写真でも絵画でも音楽でもなのですけれども、アウトプット、表に出したときにそれが評価される。それは自己実現というか、承認欲求が満足されるということで、サークル活動の魅力になるのではないかなと。

(事務局)

ありがとうございます。では次、お願いします。

(委員)

きょうは初めて参加しました。内容的によく理解できないので、済みません。

私は、住民というか、人間関係の交流ができるのではないかなという。この辺かな。ちょっと表現は違いますけれども。でも、やっぱりサークルとか、そういうスポーツも、クラブとか、そういうのをやっていくと、どうしても皆さん、お互いの理解ができるので、そういう面ではいいかなと思います。これからもやっていきたいと思います。

(事務局)

では、次、お願いします。

(委員)

ちょっと幅が広く書いてしまったのですけれども、近所づき合いの場。地域と書いてあったので、近所づき合いの場で、人と人とのつながりをつくる場所ということで、ここでいいのですかね。仲間づくりに入るのですかね。

あと、自己実現というのは、本当はそっちのスキルを上げる部分かなと思っていたのですけれども、実際はやったことで何か評価されるということにもつながるので。

あとは、最初は、自分の可能性に気がつくというもので、自己実現とも近いのですけれども、いろいろな話を聞いてたら、新しいものに触れることだと思うので、文化とかともかかわるのかなとも思ったのですけれども、そこに行くと、何か自分が今まで興味があるとも思っていなかったことに出会えてしまうということがあるといいなと思うので、そういうものを書いてみました。可能性とか。

(事務局)

ありがとうございます。では次、お願いします。

(委員)

まず一つは、同じベクトルを持つ者同士の居心地のよさ。言ってみれば、仲間づくりという感覚ですよ。

それから二つ目は、先ほど、子供に教えてというお話がありました。異世代に伝えるということ、それから、異世代に学ぶという価値があるのだなと思いました。

それから、ちょっと見方がはすに構えているのですけれども、今、働き方改革と申します。ただ、私も先ほど申し上げたとおり、早く帰ったってやることないじゃん、別に長く仕事していていいでしょう、だめ、というタイプなので。でも、こういうサークル活動などに生きがいを見つけていくと、仕事や働き方に対する意識改革というものができるのではないかと思いました。その類いは何かあったでしょうか。

それと、これは本当に学校としての視点かもしれませんけれども、個人で学校と何か連携をしたいのだと直接窓口においでになっても、なかなかうまくいかないのです。でも、サークルという形で、こういうサークルがあって、こういう活動をしています。市のほうから団体として、こうして承認されていますと言われてみると、学校としては、ぜひご協力をさせていただきたいと言いやすいのです。個では連携しづらい団体とつながりが期待できるのが、サークル活動だと思いました。全然、本当に視点がとんでもないところなのですけれども。以上でございます。

(事務局)

ありがとうございます。次、お願いします。

(委員)

私も今回が初めての参加になります。よろしくお願いします。

皆さんと同じようなことなのですが、同じ思いを持つ人同士でつながりができるのではないかということで、人間関係づくりということと、あとは、ともに学び合えるということ。

あとは、個人の能力を高めるということと、少人数でも気軽に話し合うことができる場になるかなという。そのようなことを考えていました。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では次、お願いします。

(青少年女性センター長)

私もほとんど皆さんと、同じです。趣味、生きがいづくりです。

あと、一番の主は仲間づくりだと思います。

あとは、よく団体みたいな形にならないで、枠にとらわれない、自分たちで自由なタイミングでやれる、活動のしやすさというところの意味の視点で魅力なのかなということで書かせていただきました。

(事務局)

ありがとうございます。

いろいろな立場の方がいろいろな視点で見ているので、私も、そうか、そういう視点があるのかとか、なるほどと思ったものが非常にいっぱい出てきました。

やはり皆さんの中で一番核となるのは、人との交流とか人間関係づくりというものは核になるのだろうなということと、あとは楽しまなければいけないよねというところ、生きがいや楽しみはサークル活動では重要だよねというところは、皆さんの中では大きな共通事項としてはあるのだなということ、あとは知識のスキルアップ、向上とか、学びの場ということ、この大きな3本柱は、皆さんの中でも共通意識ができたかと思えます。

ただ、先ほど私が言ったとおり、いろいろな立場でサークル活動を見ると、学校の先生では、学校の先生の立場での目線、サークルでの目線、センターの目線というものがあるので、3本柱というのは基本としながら、ほかの内容もうまく踏まえて、魅力というのはこういうものだということを事務局でまとめさせていただいて、皆さんにお返しをしたいと思います。

ほかに何か、このサークル活動の魅力とは何ということを知っていて、追加があれば、ぜひお願いしたいのですけれども、いかがでしょうか。見て、これも追加したいなという付箋があれば、追加していただいても大丈夫ですけれども、よろしいでしょうか。

では、①については、とりあえず、こういった3本柱を中心という形で皆さんの共通意識を図っていきながら、今後の課題に向けて進めていきたいと思っております。

次は、2番目の課題のほうになります。では委員からお願いします。

(委員)

地域行事など、地域で必要とされるものに参加することで活性化ですかね。

あとは、本当にわからなかったのですけれども、そういう活動に一般市民がかかわることで、楽しかったり、感動したり、いい気持ちになったりというような精神的サポートですね。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員長)

まず、地域の中にいろいろなサークルがあったら、学びたいことがあったときに、身近な地域で気軽に始めることができるというのも、サークルが地域にあることの意義かなと思います。

あと、こちらは、委員がおっしゃったこととも通じるのですが、こういうサークル活動などを通して、地域のコミュニティーに参加しやすくなるということもあるかなと。私は、家族で白井に引っ越してきてから10年ぐらいになるのですが、うちのおやじも、公民館やサークル活動をきっかけに地域に仲間ができていったりしたので。

次に、住民同士がつながるきっかけが生まれるということです。

あとは、定年退職後の選択肢がふえるということも意義のひとつかなと思います。

次に、地域の中に自分の居場所ができる。

あと、地域の中に文化的な潤いが生まれる。非常に抽象的なのですが、文化的な地域になるのかななんて思っています。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。次、よろしくお願いします。

(委員)

私、全然、視点が違うのですけれども、この間、11月に、第63回の市民文化祭をやりまして、ことし初めて来館者の方にアンケートをとったのです。550人ぐらいの方が来ていただいて、9割の方は満足、よかった、よかったと。9割の人はもういいのですけれども、残りの余りよくなかったと、非常にだめというのもあるのだけれども。こういうところが足りなかったよというのが、こうしてほしかったよというのが結構出てきている。具体的に言うと、作品の数をもうちょっとふやしたほうがいいのではないか、寂しいと。ほかの自治体の文化祭に比べてという話とか、あるいは、もっと具体的に言うと、白井は広いから、足があれば行けたのだけれども、足がないから行けない。これは方策のほうになるのだけれども、そういった意見が出てきているというので、それは、文化団体協議会とか、文化祭実行委員会だけでは全然クリアできないのだけれども、こういう指摘があるというのは把握できるかなということで、社会教育に対するニーズの把握と、マッチングできればいいかなというような感じですか。

(事務局)

次、お願いします。

(委員)

私も、つながれる場というところですよ。私は生活の中で、ご近所さんだけではなくて、そこを越えてつながれるというところが魅力かなとも思いました。住民同士をつなげる。

あと、似ているのですけれども、支え合える、助け合える。そういうふうなものが、住民同士の中でそれができるというところですね。

あと、これ、ちょっと似ているのですけれども、行政が主体で行うのではないので、市民から発信する主体的に活動する活動が可能になるというところですかね。

これが、実は課題もいっぱい出てきてはいるのですけれども、課題解決の場にもなるのではないかと。その一つの課題に対して、この活動を推進しようという団体もあると思うので。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。次、お願いします。

(白井駅前公民館長)

私も社会教育団体は、特に地域貢献ができるのではないかなと思って。

あと、引きこもり防止と、横のつながりということで。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(西白井公民館長)

さっき、支え合いという言葉で出ましたけれども、地域の自助、共助の力ですね。支え合いみたいなことだと思うのですけれども、お互いに助け合う。自分たちでできるのだということをみんなが認識していくということですね。

あとは、単純ですけれども、学びの機会がふえる。自分が所属していなくても、いっぱいそれこそ文化祭とか行くことで、こういう感じですかね。いろいろなことを学んでいく機会がふえるといったところですね。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

私も皆さんと同じような感じなのですけれども、まず、個人を超えたつながりというか、サークルに入るに当たって、親しい人の間同士でやっていたのが、その先につながる、そのサークル内でなく、サークルの中の友達のその先までつながるということで、人とのつながりですね。

あとは、その地域の活性につながるのではないかとですね。

あとは、これもサークルと社会教育関係団体という二つがどういうというのが、正直、今、見えていないのですけれども、サークルは私の中では、ただ楽しく自分で満足する

ようにやっているという。社会教育関係団体というのは、自分の存在意義というか、それをすることによって、人に貢献できているというものがあるのではないのかなと思っています。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

なかなかコミュニケーションを醸成するのは大変だろうと思うのですが、こういうことをやることによって、コミュニケーションの強化につながっていくのだろうと。

それと、私も今のところに住んで30年なのですが、80歳を超える方がばらばら出てきて、横で見ていると、ごみ出しもなかなか大変だなと。たまに手伝うのですが、その高齢化への対応、それから助け合い。ということにつながるのかなと。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

次は、サークル活動をやることによって、次の指導者がそこで生まれてくる。そういうことがあるのではないかと思います。社会教育の団体でもそうですけれども、そういうことで、一つだけです。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

さっきのものをつながって、地域にあるということで、つながる場の提供ですね。

自己実現とか、そういう新しいものに触れて、可能性を感じて、そこで自分のスキルが上がることを地域の人たちに還元する場になると思うので、それでまた戻ってしまうのですが、自己実現というか、自分の存在意義とか、そういうものによりつながるかなと思うので。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

皆さんがおっしゃっていたようなお話です。地域の連帯意識というのが強まるだろうということ。

それから、私が常々心配しているのは、部活動が制限された結果、中学生は今どこへ行ってしまったのというのをすごく心配しています。そういう青少年の居場所がふえると思います。

それと、私ども学校とのお互いに協働する、お互いに協力しながら、何か一つ成し遂げるといったような場が広がるだろうと思います。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

まず1点目、環境整備作業などは、地域貢献につながるかなということ。

あとは、サークル活動等は、生涯にわたる学習の場を広げることができるということで、私も実は、退職後の学習の場がふえるのかなと。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(青少年女性センター長)

私もかなり抽象的に書いてしまったのですが、サークルさんとかというのは、こういうことを私たちはやりますという目的がわかりやすいのかなと。そのことによって、何か参加したいといったときに見つけやすいというか、つながりやすいのかなということで、目的の明確化というのを。

これは地域の活性化、市民同士のつながり、両方になってしましますが、地域の活性化につながると。

あとは、地域に根ざした活動というものができるのかなといったことで。文化的等も含めてですね。

(事務局)

ありがとうございました。さっき委員からあったとおり、サークル活動とか社会教育関係団体というもののすみ分けというものが、まだ皆さんの中で整理させてない中でも、両団体が地域にあるということで、地域の活性化が生まれるであろうということ、あとは助け合いとか横のつながり、そういったところのつながりの活動というところの大きく二つが出ています。

そのほかにも、自分の居場所を見つける一つのきっかけもあります。退職後の選択肢がふえるというのも、なるほどなと思いましたがし、委員からもあったとおり、地域に根ざした活動をしていくことで、今、指導者不足があるなか次につなげていくというところも重要のため、それが一つのきっかけづくりになるというところも出てきたと思います。

この部分では、大きな柱としては、地域の活性化とかそういったところ。もう一つのほうが支え合い、居場所というところになってくるかと思しますので、その辺をうまくまとめた上で、皆さんのほうに、お返しするような形をとりたいと思います。

ほかに何か皆さんの意見を聞いていて、こういったものも実はあるのではないかなというものがありましたら、ぜひ出していただきたいのですけれども、大丈夫でしょうか。

では、次に最後です。3番目のテーマに移りたいと思います。

3番目のテーマが、社会教育関係団体が活発になることで、こういった期待が持たれ

るかということが、この委員会が持っているテーマの本当に最終的なところになるのではないかと思います。

(委員)

最終的には、人間関係、支え合い、助け合いということだと思うので。

あと、先ほど郷土愛とおっしゃっていたの、地域がいい感じだったら、白井はいいなと思えたら。という感じですかね。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員長)

先ほどの2番目のテーマとも当然かぶってくると思うのですが、もうちょっと大風呂敷を広げて、結構、夢みたいなことを書いてみました。

まず一つは、学習・スポーツ・文化活動を鍵にした地域の活性化が期待できるだろうと思います。

次に書いたのが、地域の教育力。地域で「地域の子供たち」を育てていくための、地域の力のようものが豊かになっていくのではないかなと思います。

あと、住民の全体的なQOL、生活の質というものが高まっていくと思います。

次に、いやらしい書き方なのかもしれませんが、民生費等行政コストの削減も期待できる。サークルで元気に仲間と一緒に活動していたら、余り病気になるなかったり、健康の維持につながったりして、それが福祉や医療にかかる予算の削減などにもつながるのではないかな。そこら辺のことも書いてみました。

次に、これは先ほども出ていたと思いますが、住民のつながりがまず豊かになる。人間関係も広がり、深まるということです。住民のつながりが豊かになると、例えば災害時などのいざというときにも効果を発揮すると思います。また、防犯や子育てなんかなにもプラスの効果が期待できます。

次に書いたのは、私は白井市民になって、まだ10年ちょっとですけれども、昔から白井に住んでおられる方と、私たちみたいにニュータウンが開発されて入ってきたような新住民との垣根を崩して、白井市民として一体感を持てるようになることは、とても大事な課題だというふうに思います。サークル活動などがもっと盛んになって、その活動を通していろいろな人が出会っていけたら、新旧住民の交流も促進をして、市民としての連帯感・一体感みたいなものが醸成されていくのかなと思います。

あと、これも行政的な発想で書いたのですが、白井市は生涯学習都市宣言をしていますよね。そこには、どういう町にしたいのかという理想が非常にやわらかい言葉で書かれていますが、サークル活動が活性化していくことで、この宣言に書かれているような理想が地域の中に実現していくのではないかなと思いました。

あと、これも先ほど出していただいたことともつながるのですが、文化的で住みやす

い、あるいは住み続けたい地域というものができてくるだろうなと思います。郷土愛とも近いところかなと思います。私からは以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

視点が全然違うからというか。一つは実例で、一般的な高齢化の方というのがあるのだけれども、それでも結構いらっしゃるのだけれども、将棋しかできない、あとは、もう社会的に会話もしないという人もいるのです。そういう人が来てくれる。これは、今まで2人なのだけれども、これは結構、我々も神経使うけれども、非常にリアルなのだけれども、意義があるかなというのが、引きこもり対策と書いてしまって。一種の高齢化対応みたいなものなのだけれども。

もう一つは、対策ばかりになってしまいますけれども、横の連絡がないとか、いろいろな問題が我々に出ているのだけれども、何かモデル事業的なものを一つやって、活性化のためにそれをみんなにPRしたらと。そんなことも検討していいのではないのかなと。別にごまをするわけではないのだけれども、こういう意図があるよというのをできたらと思って。

それともう一つ、これもリアルな話ですけれども、書いたのは、誘い水の必要性ということなのですけれども、去年、教育団体の認定をしましたよね。35認定して、残りはノーだということで、その中に条件つきというのが何件かあるのです。条件が満たされれば、また継続しますという話であって。

あともう一つは、会則とか規約に社会教育関係のことがうたっていないではないかというのが物すごく多いのね。これが現状だと思います。サークルやっている人が、社会教育やるのだという人は、いないのが現状かなと思います。そうすると、いないから、やっていないから、はいとそこで切ってしまうと芽が出ないのではないかなと。だから、今回改めて4月に募集するようすけれども、税金の問題があるから、何でもかんでもではないのだけれども、誘い水で、こうすればというのを出してやらないと、逆の方向行ってしまうのではないかということで、行政にかかわる話だけれども、誘い水の必要性と。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

私も今までと似たような感じになるのですが、個人的に一言で言うと、本当に健康な町だなと思ってしまうのですけれども、まずは、社会的な健康度が高まるといったのですけれども、実は身体活動も盛んになりますし、精神的にも豊かになるので、人々の健康度が高まるような感じですかね。

あとは、活動したいと思える人々がふえるのじゃないかなと思います。先ほどのほうにも出てきたかもしれないですけども。ここら辺ですかね。要するに、そういう思う気持ちの効果が高まるということですね。

生活の中で住民の顔が見える町と、何かすごくほんわかした感じで書いてしまったのですけれども、結局は安心できる町とか、活動的だなと。人が多いな、この町と思えるような。実際の数ではなくてということなので、これも難しいですよ。

これも、先ほどの学びたいと思う人々の場づくり。学びを大切にできる町の効果ですね。

あとは、今はやりの人生100年時代というのを実現できる学びの場が多くある町みたいな。言葉、使えそうだから、ここら辺、ちょっとつつかれそう。学びたい。学びの場で、ここら辺ですね。町の愛着度も書きました。高まると思います。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(白井駅前公民館長)

さっき、誘い水とおっしゃったのは、私も公民館をやっている、昨日も2団体が、先生が高齢化でできませんという団体がいましたし、きょうは、もう27年やっていて、習志野から講師の先生を呼ぶのが大変ということで、どうしようかなという団体もいて、本当に、社会教育関係団体の認定をしていたときに、この活動が何で認定下りるのかなと、公益性とは何だろうと思っていたのですけれども、自分で実際、館を運営してきて、ハードルを下げることも大事かなと。介護保険が減るのは、生き生きとサークルを活動していたりすると、仲間づくり、さっき引きこもりとおっしゃったけれども、そういう方もなくなっていいのかなと思ったので。それを大きく言ったら社会教育なのかなという感じになっています。あと、市民力が生かされる強い地域づくりができるのではないかなと。それは、ゆくゆくは公助に頼らなくて、共助で自分たちでやっていけるのではないかなという地域ができるのではないかなと思います。あと、災害時に、そのときに本当にその地域の力が発揮されて、支え合えるのではないかなと思って。

だから、フェスに参加するだけで、社会教育認定団体が下りていたという時代もいいのではないかなと。それは、地域が生き生きとしているということで、いろいろと生かされていたのではないかなと、改めてこのごろ思ったり。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(西白井公民館長)

私は本当にざっくりしてしまったのですけれども、本当にいろいろなものをまとめて、より暮らしやすい地域になってくるということですね。

それからもう1個は、いろいろこの白井がいい地域になった結果、ほかの地域から、

白井いいから白井へ行こうよという人がやってきて、人口がふえるということ。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

地域ごとにサークルとか社会教育団体が活性化すると、その地域の特色というものが出来てきて、その地域の一体感とかまとまりというか、その地域の特色が出てくるのではないのかなというのと。

あとは、ほかの方もおっしゃられていたように、ほかの高齢化ですとか災害とか、いろいろな意味で、今、多分、まちづくり協議会というのが白井ではできてやっているのですけれども、それは今、行政からなのでやっているのですけれども、こういうサークルとかそっちからの下からの部分でのまちづくりというのも必要ではないのかなと思って、そういうのができるのではないのかなと思います。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

このタイトルとちょっと違うんですが、あえてなのですけれども、活発になることでなくて、活発にするためにと読みかえて、私、考えました。

前段長くなるのですけれども、去年、市民大学の「しろい発見学部」を卒業しまして、OBで24名なのですが、OB会をつくって、いろいろな行事を行っています。おじさん、おばさんのハイキングなのですが、1年で4回ぐらいですかね。24人のメンバーで、大体20人前後。なかなか出席率いいと思うのですが、なぜいいかをつくづく考えたときに、献身的に事務を担っていただいている方が2人いまして、ただひたすらそのリーダーというのですか、事務局の方の仕事に負うところが大きいのです。

この読みかえた活発にするためにということでの第一条件というのが、さっきも話したように、リーダーの育成、それからリーダーの発掘が、大事なのだろうなと思って。そのためにどうしたらいいのということになるのですけれども、リーダーへのインセンティブみたいなものはあれかと思うのですけれども、団体へのインセンティブ付与みたいなものはないかなと。金銭的に限らず、施設の使用料の大幅助成だとか、表彰状だとか、委任状だとかみたいなものを折に触れて発行すれば、満足度が得られて、やろうかなという気にもなってくるのかなと思います。

それと、前もこれ、お話ししたかと思うのですけれども、これも視点違うのですけれども、社会教育団体の再定義というのですか。非常にハイレベルな表現で、どうも勘違いしてしまうのではないかという気がいつもするのです。これ、読んでいてもだめなので、もう少し何か名称変更というか、あるいはサブタイトルでもつけて、こういうことなのですよというのがあると、敷居も少し下がってくるのかなという気もいたします。

それは活発化につながってくるのかなというような気がしないでもございません。活発化になることで、さらに自治会活動の強化。それから、いろいろな催し物に出ることによって、知力、体力の強化にもつながっていくのかなという思いであります。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

サークルは社会教育の関係の活発化になるので、ちょっと表現は悪いのですけれども、年齢差の違いをなくすことができるのではないかという。活動をしている間に、上下の関係がなくなって、その辺があるのではないかなということで、ちょっと表現が悪いのですけれども。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

先ほどの意義とかメリットとか、そういったことがうまくつながっていくと、地域が活性化するのかなと。元気になるかなと思ひまして。それによって、活発になることで、人のつながりとかそういったことが生まれて、地域力が高まって、高まったことによって、一人にしないことにつながって。一人ではないと感じて、孤独を生まないことにつながり、角度を変えて、これは高齢の方たちとかのイメージになってしまうのですけれども、先ほど高校の先生がおっしゃったように、部活動を短くというのが出てきたので。あと、部活動がない学校も、生徒さんがやりたいことがない学校もあると思うのです。そういうことが学校でできないことができるものが、こういうことでできるようになると、小中校生の活動、活躍の場が広がり、そんな元気になっちゃうと、地域とか市全体の特性とか、個性が生まれるかなと。魅力というか。できて、結果、他地域、他市、自治体を越えて交流、人の流れがどんどん生まれて、市のファンがふえるのではないかと考えました。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

ほとんど似ていますね。相互理解の増進。

それから、不寛容社会と言われますけれども、相互理解が進めば、そういった不寛容な社会を和らげるのではないか。この辺だと思うのです。

それから、活動以外の情報共有。さっき、防災みたいなお話もありましたよね。情報共有と、それから、この話知ってるというような入力チャンネルになっていける。活動以外のところでのそういった情報の窓口としての役割もあるのかな。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。では、次、お願いします。

(委員)

私も地域の活性化が高まるということと、あともう一つは、活動が活発になると、今度、別の新しいサークルだとか団体というものができてくるのではないかなと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。最後、お願いします。

(青少年女性センター長)

私も、今、老人福祉センターうちのセンターでありまして、長くやっているサークルさんはどういうところかなとなると、自分たちでみずから、活発になってくると、いろいろな課題なりいい点をさらに生み出そうとしている。かなり市民同士のつながりというのができてきているので、市民主体でいろいろな活動が活発になると思われるのかなと思っております。つながりも含めですかね。

あと、意外と自覚がないのが、意外とそのやっている活動が社会貢献活動になっているのだというところ、そこがうまくつながって活発になってくると、もっと自分たちのサークル以外にも、自分たちの活動はこんな魅力が、ここまで喜ばれるのだというところで、より相乗効果になっているのかなと思います。

先ほども出ました、委員もおっしゃっていましたが、市民目線でのまちづくりというのが、積極的に意見が出やすくなっていくのかなと思います。それが結果的に地域力の向上につながるだろうと。

(事務局)

ありがとうございました。委員どうぞ。

(委員)

大事なことを用意して言うのを忘れてしまったのですけれども、さっきのOB会の発展形で、実は去年の11月に、もう少しメンバーの中でパソコンのことを勉強したいのだというお話が出てきました。メンバーの中でお二人、現役のときにそういう仕事をしていた方がいたので、いいですよということで。

11月にキックオフされて、1月で終わっていますけれども、パソコン教室というものを従来のOB会とは別に間口を広げて、一般の方もどうぞいらっしゃってくださいということで実施し、12月にまちサポに登録して間口が広がりました。このような形でサークルも広がっていている状況になっています。

(事務局)

ありがとうございます。

3番の壮大なテーマについて、皆さん、いろいろな視点で、本当に幅広くいろいろな

意見をいただきました。

ここでも一番言えるのは、まちづくりとか地域の活性化というところの地域力の向上が期待できるよというところと、あとはさっきの2番目のテーマでもありましたけれども、地域社会の共助とか公助、災害とか。今日、1月17日は、阪神淡路大震災、25年もうたっています。私も大学生でした。去年は、千葉県も非常に大きい災害を本当に体験して、今後、災害に強い町とかと、地域の防災力ということが出てくると思うのですが、そういった団体などが活性化すると、つながりが強くなり、地域がうまくいくということですね。

あとは、いろいろな目線で、行政からの目線。リーダーの育成の目線というところ、市のこういったことがよければ、人口が増加していくのではないかと、先のところのビジョンまで期待されるというところを皆さんから意見いただいたので、ここは幅広くつくったほうが、皆さんの意見ができるのではないかと思います。

うまくまとめられるようにし、皆さんのほうにまたフィードバックしたいと思います。ありがとうございました。

そうしましたら、一応、ワークショップ①から③まで終わりましたので、これで一旦締めさせていただきます、またお席にお戻りいただいて、最後の締めをさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

－自席に移動後－

(事務局)

ワークショップでは、皆様、活発にご意見いただきありがとうございました。本当に幅広い視点から、いろいろご意見をいただきましたので、これをうまくまとめまして、最初の導入部分のほうの報告書に、ワークショップでの部分も入れさせていただきたいと思います。

それでは、今回の社会教育関係団体の支援のあり方につきましては、以上をもちまして終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

(委員長)

皆さん、初めてのワークショップの試みでしたけれども、どうもありがとうございました。こうやってみんなで意見を出し合って確認をしてみますと、サークルや社会教育関係団体が地域にあることは大事だし、それがもっともっと元気になっていくとは、市の大きな課題を解決する一つの手がかりにもなるのではないかと。そんな可能性なんかも見えてきた、みんなで確認できたかななんて思います。ですので、私たちも知恵を絞りながら、どうやったらサークルや社会教育関係団体の活動がさらに活性化していくのか、そこら辺について、思いを込めて議論をして、一つの提言につなげていけたらなと思っ

ております。これからも引き続きよろしく願いいたします。

では、以上で本日の議題は全て終了ということになりますけれども、委員の皆様の中から何かお知らせなどはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは最後に、事務局から事務連絡と、とてもおめでたいご報告があると思いますので、よろしく願いいたします。

(事務局)

事務局より2点ほどご連絡をいたします。現在、市では、教育大綱の見直しを進めているところで、白井市教育委員会の中で白井市教育振興計画の策定を今、進めているところです。その策定に当たりまして、今後、生涯学習、社会教育の分野に、皆様のほうからご意見を頂戴するような場を設けさせていただきたいと思っておりますので、そのときにはご協力のほうをお願いいたします。早ければ次回の会議には、その計画案等が提出できるかと思っておりますので、早めに皆さんのほうにお示しできればと思っております。

なお、教育大綱及び教育振興計画の策定方針につきましては、本日、皆様のほうのお手元に配っておりますので、お帰りになりましたら、ご一読いただければと思います。

次に、第2回の生涯学習推進委員会の会議につきましては、現在、皆様のほうに日程の調整のお願いをさせていただいているところですが、3月の第1週目で開催させていただきたいと思っております。詳細は、決まりましたら改めてご連絡をいたします。事務連絡につきましては、以上です。

最後に一つ、ご報告があります。お手元にも本日配付させていただきましたけれども、文部科学省で行っております優良公民館表彰に、白井市学習等供用施設、通称富士センターが、千葉県より推薦されまして、12月17日に表彰館として決定いたしましたので、ご報告させていただきます。全国で75館が表彰されまして、県内からは3館になっております。

推薦していただいた主な理由といたしましては、ほかに余り例を見ない「小学生の早朝預かり事業」、保護者が子供の登校時間より前に家を出てしまう。そうすると家が子供だけになってしまうので、そういった子供たちを富士センターのほうで預かりますという早朝預かり事業を行っているのですけれども、その事業が、指定管理者として地域と連携して実践しているところを評価されたということで、今回、対象となりました。

お手元の資料に、全国の表彰館75館が書いてありますが、丸がついているところは、さらに最優秀優良公民館ということで、再度この5館の中から、1番の最優良公民館が選ばれるという運びにはなっているようです。残念ながら、白井市の学習等供用施設はそちらには選ばれなかったのですけれども、優良公民館表彰として決定いたしましたので、皆様のほうにお知らせいたします。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。

それでは、本日の臨時会は閉会とさせていただきたいと思います。

(事務局)

委員の皆様、ありがとうございました。